

あまねく

amaneku

2025 vol.15



同志社大学 スチューデントダイバーシティ・アクセシビリティ支援室

「あまねく」第15号発刊によせて

スチューデントダイバーシティ・アクセシビリティ支援室長
荒渡 良



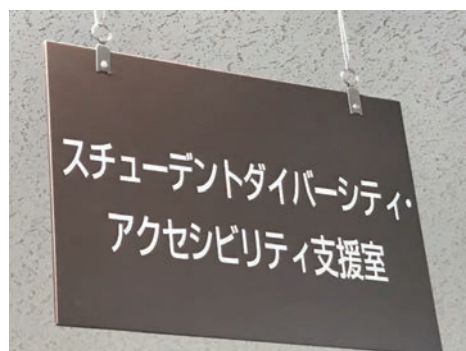
いまから70年以上も昔の1949年、同志社大学は日本で初めて点字で大学入試を実施しました。その後、身体の障がいを対象に物理的（バリアフリー化など）、人的（学生支援のコーディネーターやボランティアスタッフの登用など）な支援を広げ、2000年からは「障がい学生支援制度」として全学的な支援体制を構築しています。この広報誌「あまねく」の巻末には、本学の障がい学生支援の歩みが詳しく記載されています。毎年毎年、たゆまぬ進化を続けてきた支援の姿をぜひご覧いただければと思います。

さて、この歴史ある同志社大学の障がい学生支援ですが、近年は大きく変わろうとしています。まず身体の障がいに加えて、精神・発達の障がいも支援の対象となりました。そして2021年の障害者差別解消法の改正です。この法律では私立大学においても「学生の学ぶ権利を保障し、その特性に合わせて合理的配慮を行う」ことが義務付けられます。これは本学らしく言い換えると「自主自立を目指すすべての学生に、等しくあまねく学びの機会をわたらせるための配慮を行うこと」となるのでしょうか。この配慮を受けることは、学生の権利でもあるのです。そして教育の現場では、学びの質を確保しつつ、障がいのある各学生の特性に合わせて、どのように合理的に配慮内容を策定するかが重要になります。もちろん、この合理的配慮は学生や履修科目の特性によっても異なることでしょう。本学のスチューデントダイバーシティ・アクセシビリティ支援室（SDA室）は奇しくもこの法改正とほぼ同時に発足しましたが、その主たる業務の一つは、この合理的配慮に関することです。具体的に配慮提案作成にかかわるとともに、学内で合理的配慮に関する理解を深める機会の提供も行っています。発足して4年を経過したSDA室ですが、これからも各学部、組織の皆様と協働で業務を進めてまいります。ご協力のほどをよろしくお願い申し上げます。

変化の二点目は、コロナの時代における障がい者支援のあり方です。コロナ禍では完全にオンラインであった障がい学生支援も、2022年度からは遠隔授業・面接授業となり、各種の対面行事が再開されました。オンラインと対面の両手法を生かした複合的なサポートをどのように有機的に展開するか、SDA室ではスタッフの皆さんとともに新たな支援のあり方を俯瞰的に考え、発展させていきたいと考えています。

そしていま、世界では「多様性（Diversity）」を尊重する時代を迎えています。この「多様性」には国籍、性別、性的指向・性自認、文化、宗教、といった様々な概念が含まれます。同志社大学において、同じ志を持つ多様な人々が、すべからく、あまねく「個」を発揮できるキャンパスを実現することも、SDA室の使命の一つです。

このような背景のもと、広報誌「あまねく」が、本学における障がい学生支援の理念と取り組みを知っていただき、多様な人々の共生と発展を目指す社会の実現を願うすべての方々を繋げるための、新たな標となれば幸いです。



目 次

はじめに「あまねく」第15号発刊によせて	01
< 大学内行事開催状況 >	03
03 2024 年度 入学式手話通訳 / 2024 年度 入学式パソコン (PC) 通訳 / 春学期始め顔合わせ会 / ランチタイム手話	
04 サポートスキル勉強会 / スタッフ募集説明会	
05 サポート活動交流会 / Zoom 交流会 / タイピング測定イベント	
06 学期末全体懇談会	
07 ガイドヘルプおよび車いす介助の講習会 / 障がいのある学生への合理的配慮に関する研修会 / 複合領域科目「ダイバーシティ社会における障がい学生支援を考える ーアクセシビリティ支援の理論と実践ー」	
08 障がい体験講習会	
09 第 20 回 Challenged キャンプ	
10 階段誘導キャンペーン / 車いすユーザーの利用学生と話そう! (サポートスキル勉強会番外編)	
< 社会貢献事業 >	11
11 上京区憲法月間事業「映画のつどい」/ 海外研修訪問者との情報交換	
12 城陽市議会議員他の京セラ字幕表示システム「Cotopat」見学会 / 鳥取大学来校	
13 パラスポーツ振興事業 第 32 回パラアーティスティックスイミングフェスティバル / 第 20 回京都手話フェスティバル	
< SOGI に関する取り組みについて >	14
14 同志社レインボー映画祭 / 同志社レインボーセミナー / 教職員対象 LGBTQ+ の学生への配慮・対応に関する研修会	
15 性の多様性に関する調査	
< スチューデントダイバーシティ・アクセシビリティ支援室について >	16
< 同志社大学における障がい学生支援の沿革 >	17

大学内行事開催状況

●2024年度 入学式手話通訳

開催日・場所：4月1日（月）京田辺校地 デイヴィス記念館
協力スタッフ：3名

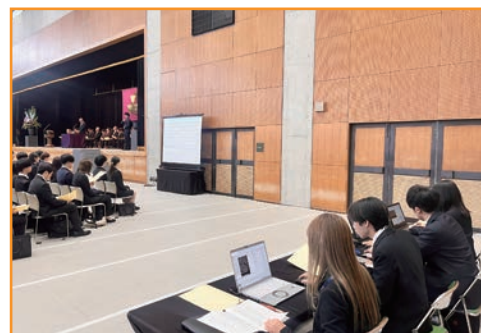
【手話通訳スタッフの声】

藤井 優樹（心理学部 2年次生 / サポートスタッフ）

私は、今回初めて入学式での手話通訳を経験しました。通訳に挑戦したいと思ったきっかけは、新入生に手話を身近に感じてもらいたいと思ったからです。多くの人は手話学習や手話通訳をとても敷居の高いものを感じると思います。そこで、在学生が行う手話通訳を、実際に見てもらうことでその敷居が下がり、もっと多くの人が手話に興味を持つのではないかと思います。挑戦しました。

実際に入学式当日、手話通訳をしてみても話者の話すスピードに手話を合わせるものの難しさを感じました。事前に登壇者の話を聞くことはできないので、その場で話すペースを掴む必要があります。手話の表現力だけではなく、状況に応じて臨機応変に手話を表す対応力が大切だと気づきました。

これからも、もっと多くの人に手話に興味を持ってもらうために活動をしていきたいです。今回は貴重な機会をいただき本当にありがとうございました。



●2024年度 入学式パソコン（PC）通訳

開催日・場所：4月1日（月）京田辺校地 デイヴィス記念館
協力スタッフ：4名

●春学期始め顔合わせ会

開催日・場所：3月27日（水）両校地 オンライン開催
参加者数：28名

●ランチタイム手話

【春学期】開催期間・場所：4月～7月 第2・第4水曜日 初回のみオンライン開催
今出川校地 良心館サンクンモール横地下ラウンジ
京田辺校地 多目的ホールラウンジ

参加者数：約18名/回
講師協力：6名（利用学生・学生スタッフ）

【秋学期】開催期間・場所：9月～1月 第2・第4水曜日 初回のみオンライン開催
今出川校地 良心館サンクンモール横地下ラウンジ、
明德館地下1階 SDA 室ラウンジ
京田辺校地 多目的ホールラウンジ

参加者数：約7名/回
講師協力：9名（利用学生・学生スタッフ）

開催期間中、昼食をとりながら楽しく手話を学べる場を設けています。ランチタイム手話は、挨拶や自己紹介の仕方・季節などのテーマに合った簡単な会話を通して、手話でコミュニケーションをとることを楽しんでもらう目的で行っています。今回は、春学期開催時の参加者の声を紹介します。



【手話参加学生の声】

長谷川 竹雪（商学部 1年次生 / サポートスタッフ）

私は映画やアニメ作品に影響され、手話サークル、そしてこのランチタイム手話で手話を勉強しています。ランチタイム手話では、今日は季節の手話を、来週は曜日の手話を、といったように、カテゴリーに分けて学ぶことができ、出てきた手話を使って、ほかの参加者や講師とやり取りできるので、楽しみながら手話を学ぶことができます。手話という難しいイメージを持つ人も多いと思いますが、主に物の形や動きといったものを元に作られているので、ずっと頭に入ること多いです。各回のテーマとなる手話に関連した単語の動きに共通点があることも多く、そこに手話の面白さを感じています。また、わからないことや知りたい手話表現をすぐに講師に聞くことができます。

私自身も次学期から講師としてランチタイム手話に参加します。まだまだ初心者ながら、手話の楽しさ、面白さを伝えていけるように尽力しますので、ぜひランチタイム手話と一緒に手話を楽しみましょう！

●サポートスキル勉強会

【春学期】開催期間・場所：4月15日（月）～ 7月11日（木）両校地オンライン開催・一部対面開催
参加者数：延べ35名

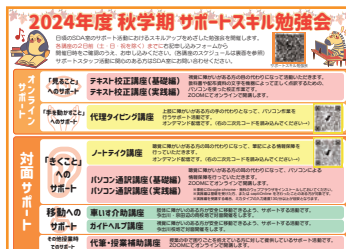
【秋学期】開催期間・場所：10月7日（月）～ 12月11日（水）両校地オンライン開催・一部対面開催
参加者数：延べ17名

SDA室では、障がい学生支援に関する様々なサポートについてスタッフのスキルアップを図るため、毎年春・秋にサポートスキル勉強会を開催しています。

聴覚に障がいのある学生へのサポートとしてのPC通訳講座や、視覚や肢体に障がいのある学生が安全に移動できるようサポートするためのガイドヘルプ・車いす介助講座など、様々な講座があります。

レギュラースタッフとして活動してくれているスタッフのほとんどが勉強会への参加から活動をスタートしています。

勉強会に参加してくれた学生の声を紹介します。



【スタッフの声】

商学部（1年次生 / サポートスタッフ）

私はSDA室でサポートスタッフとして活動しています。

同じ社会の一員として、障がいがある方の視点を理解したいと思ったのがきっかけで、活動に向けて知識を身に付けるため、車いす介助講座とガイドヘルプ講座を受講しました。

車いす介助講座では、車いすの広げ方から教えていただきました。乗り心地を体験した後、実際に人に乗ってもらい、校内を移動しました。この講座を通して気付いたことのひとつに、コミュニケーションの難しさがあります。車いす利用時は利用者也介助者も進行方向を向いています。

お互いの表情が見えない分、言葉でのやりとりが重要だと感じました。障がいについて、書籍やYouTubeなど様々な媒体で知ることが出来ますが、実際に対面の場において、体感して学ぶ経験は貴重です。

学内にいながら様々な講座を受講する機会が提供されていることを、とてもありがたく感じています。

講座で教えていただいたことをこれからの活動で役立てていきたいです。



●スタッフ募集説明会

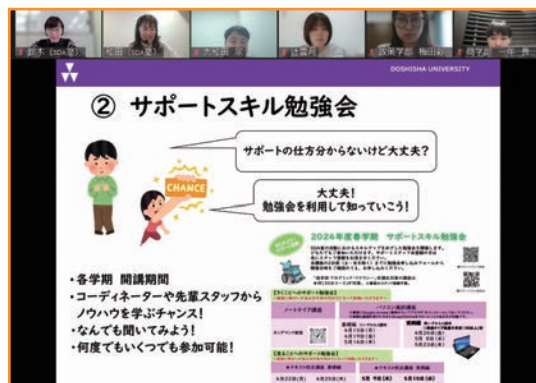
開催日・場所：4月17日（水）、5月9日（木）両校地オンライン開催

4月23日（火）、5月17日（金）今出川校地 明徳館地下1階 SDA室ラウンジ

4月26日（金）、5月16日（木）京田辺校地 多目的ホールラウンジ

協力スタッフ：10名

オンラインと両校地対面でSDA室「サポートスタッフ募集説明会」を開催しました。SDA室についての説明に、参加者の学生が熱心に耳を傾けてくれました。後半には実際に活動している先輩スタッフが、参加者の質問に対して自身の経験を交えながら丁寧に回答してくれました。



●サポート活動交流会

開催日・場所：5月24日（金）、6月24日（月）、7月24日（水）

今出川校地 明德館地下1階 SDA 室ラウンジ

京田辺校地 多目的ホールラウンジ

参加者数：延べ23名

春学期・秋学期開講期間中、月に一度、コーディネーター・利用学生・サポートスタッフ間の交流と、活動の中のささいな疑問点などを話し合う機会として、サポート活動交流会を実施しました。



●Zoom交流会

開催期日・場所：6月13日（木）両校地 オンライン開催

参加者数：7名（今出川校地）

3名（京田辺校地）

両校地の利用学生とサポートスタッフがオンライン上で集まり、幹事が企画したゲームやクイズを楽しみながら、交流を深めることができました。

参加者の声を紹介します。



【スタッフの声】

生田 妃茉莉（文化情報学部 1年次生 / サポートスタッフ）

私はサポートスタッフ登録をしてまだ日が浅いので、Zoom 交流会には、SDA 室の活動についてよく知れる良い機会になると思い参加しました。

幹事の方がミニゲームを企画してくださり、その中で参加者の私たちに沢山話を振ってくれ、オンラインとは思えないほど充実した時間を過ごすことができました。みんなでお題に対する答えを揃えるゲームでは、「他者の視点で物事を考える」ことの大切さを学びました。また、クイズ形式で SDA 室の歴史などを楽しく学ぶことができました。Zoom だからこそ普段なかなか関わることもない今出川、京田辺両校地の SDA 室の利用学生、サポートスタッフ、コーディネーターと交流できてよかったです。

これからスタッフとしてサポート活動をしていくにあたって、今回の交流で学んだことを活かして、相手の気持ちを相手の立場になって考え、スタッフも利用学生も互いが気持ちよく過ごせるようにしていきたいと思いました。またこのような交流会があったら、是非参加させていただきたいです。

●タイピング測定イベント

開催日・場所：7月3日（水）、7月4日（木） 京田辺校地 ローム記念館劇場空間

7月4日（木）、7月5日（金） 今出川校地 良品館サンクンモール横地下ラウンジ

7月8日（月）～7月12日（金） オンライン挑戦期間

参加者数：延べ160名

両校地で、パソコンを使用して1分間で打てる文字数に挑戦するイベントを開催しました。

MikaType というタイピング練習ソフトを使用して文字数の測定を行い、たくさんの方に参加していただきました。

会場では、PC 通訳サポートを行う学生スタッフの写真の展示、サポートに関する映像も上映し、SDA 室へ関心を持っていただける機会となりました。



●学期末全体懇談会

【春学期】開催日・場所：7月30日（火）今出川校地 寧静館36番教室、オンラインとのハイブリッド開催
参加者数：37名（利用学生8名、学生スタッフ13名、教職員16名）

学期末懇談会として、各学期のおわりに、利用学生・サポートスタッフ・教職員が一同に介し、学期間のサポートについての振り返りと、交流の機会を設けています。

毎回、利用学生による「話題提供」として、自身の障がいや実体験を参加者に向けて話す場を設けています。今回は、4月に入学した利用学生に『大学生になって得られた気付き～「自立」・「自律」について考える～』をテーマに話していただき、参加者も真剣に耳を傾けておりました。

その後は参加者同士で「自立」・「自律」について、各グループで定義付けし、グループディスカッションを実施しました。配慮を必要とする利用学生、サポート活動を行うスタッフ、それぞれの立場から活発な意見交換が行われました。

【話題提供をした利用学生 兼サポートスタッフの声】

橋本 まあや（スポーツ健康科学部 1年次生）

話題提供者として選んでくださり、お話しさせてもらえたことが、本当に嬉しかったです。

懇談会・ディスカッションでは、自分と違う意見を聞けて、自分なりの考えも共有できてよい時間でした。

そして、自分と違う障がいを抱えた人がこんなに多いことを知り、同時にその一人ひとりが抱える困り感が異なることが分かりました。

私は利用学生であり、また、サポートスタッフとしても活動しています。今後生きていく中で、もっと周囲にアンテナを張り、自分にできるサポートは全力でやろうと思います。会全体を通して、自分はまだまだ未熟だと思いましたが、同時にもっと頑張りたいと思いました。

またこのような機会があれば、ぜひ参加させていただきたいです。



【スタッフの声】

自立、自律について、それぞれのグループで定義が違い、どの立場から、何を大事にした見方をするかで、同じ言葉から受ける印象が違い、それぞれが正解であると感じました。

その場に居合わせたメンバーが集まることで、それぞれの日頃考えていたことがグループの中で重なり、一つの形になっていくことは、サポートの形と似ているように思います。

お互いのできること・できないこと、してほしいこと・してほしくないことがうまく共有されて重なったとき、サポートが利用学生・スタッフ双方にとって良い時間になるのだと思います。

改めて、SDA室でこのような話し合いの時間を作ってください、ありがとうございました。



【秋学期】開催日・場所：2025年1月27日（月）京田辺校地 知真館1号館116番教室
参加者数：25名（利用学生5名、学生スタッフ9名、教職員11名）

京田辺校地での対面会場をメインとし秋学期末懇談会を開催しました。

今回の懇談会では、まずサポートに関する事例を紹介し SDA 室のサポートはどういうものか、こんなとき、どう行動すればよいか、について、「合理的配慮」をキーワードに、参加者同士でグループディスカッションを実施しました。

配慮を必要とする利用学生、サポート活動を行うスタッフ、それぞれの立場から活発な発言がありました。

その他、SDA 室の取り組みを学内で知ってもらうために、どのようなことができるか、これから挑戦したいこと、などについて、意見交換を行いました。

様々な意見があり、今後に向けての課題などを双方に話し合うことができ、有意義な懇談会となりました。



【参加者の声】＜参加後の自由記述アンケートの一部をご紹介します＞

- ・今まで、担当している利用学生の方とコーディネーターの方しか関わることがなかったので、SDA室がこのような暖かいコミュニティであることを知ることができ嬉しかったです。
- ・SDA室周知のための活動について話し合えたのがすごく良かったです。活動が広まれば、支援を受ける側としても周囲に説明しやすくなると思います。
- ・全体を通して、サポートというのはただ「助ける」のではなく、「障壁をなくす」ということであるという新たな知見を得ることが出来ました。とても実りのある交流会だったと感じています。
- ・社会モデルを元とした合理的配慮は、オーダーメイドであるが故のバランスの難しいテーマであることを再認識しました。どこまでが配慮なのかという線引きをするのも難しく、また大学内でのサポート活動では毎回同じ人のサポートではないのでそれも配慮を複雑化させる要因だなと感じました。サポートスタッフ間の情報共有の必要性がとても感じられた懇談会でした。



●ガイドヘルプおよび車いす介助の講習会

開催日・場所：9月26日（木）今出川校地 寒梅館ハーディーホール

参加者数：21名

今出川校地寒梅館ハーディーホールにおいて「ガイドヘルプおよび車いす介助の講習会」を実施しました。寒梅館地下にあるハーディーホールやクローバーホールでは、学生支援センターはじめ学生団体がさまざまな催しをしています。車いすユーザーや視覚に障がいのある来場者に、気持ちよく楽しんでいただけるよう、ホールの運営補助をする学生アルバイトやホールを利用する学生団体対象に、講習会を行いました。

【参加学生の声】

お話を聞くだけでなく、実際に体験できたのが良かったです。貴重な機会でした。アイマスク体験では、視覚に頼れないことがいかに怖いことを学びました。

また、初めて車いすに乗ったのですが、思っていた以上に低かったです。体験を通して、自販機の低い位置にあるボタンの必要性を強く認識しました。

「何事も知ることから始まる」と常々思っています。知ることが理解につながると思うからです。今回も、体験して初めて気づくことが多くありました。だからこそ、もっと多くの人に体験してもらいたいと思いました。これから先、ガイドヘルプや車いす介助を行う機会があると思いますが、前よりは率先して行える気がします。今回体験した視点から、感じたことを今後活かしていきたいです。

実際に白杖を使うのと使わないのでは、目が見えない人の不安の大きさが全然違うと感じました。白杖を使うと、自分があとどれくらいの距離で障害物に当たりそうなのか、触覚で把握できました。視覚という五感の1つがあまり使えないのであれば、他の五感を使うということがいかに有効なのか、よくわかりました。

また、緊急時の避難体験で、車いすを数名が持ち上げ階段を上った際に、実際に車いすに乗ってみました。かなりの重みと角度があったので怖く感じる瞬間もありました。短い階段であれば怖さも軽減されるので、環境整備として、あまり長い階段を作らないという視点も大事ではないかと思いました。



●障がいのある学生への合理的配慮に関する研修会

開催日・場所：9月30日（月）オンライン開催

スチューデントダイバーシティ・アクセシビリティ支援室では、障がい学生への支援に関する理解促進を目的として「障がいのある学生への合理的配慮に関する研修会」を開催しました。今回は、講師に信州大学学術研究院（教育学系）教授の高橋 知音（たかはし ともね）先生をお招きし、障がいのある学生の修学支援に関する検討会報告をもとに「障がいのある学生への合理的配慮－法改正によって教職員に求められること－」をテーマにお話いただきました。2024年4月に施行された改正障害者差別解消法では、私立大学でも合理的配慮の提供が法的義務となり、文部科学省より大学への指針が示されました。これらをふまえ、事例も交えながら、大学として障がいのある学生にどのように向き合っていくか、判断が難しい「合理的配慮としてのオンライン学修」等についてお話いただき、考える研修となりました。最後の質疑応答では、自身をコントロールできない学生の対応方法や紛争時の体制についての質問があり、実践的な学びにつながりました。

●複合領域科目「ダイバーシティ社会における障がい学生支援を考えるーアクセシビリティ支援の理論と実践ー」

開催期間・場所：10月7日（月）～2025年1月20日（月）今出川校地 良心館105番教室[第1回と第15回はオンデマンド]

同志社大学における障がい者との関わりは、新島襄の志に共感して同志社英学校設立に貢献した山本覚馬（全盲と肢体不自由の重複障がい）に遡ります。その後も、新島の「一人一人ハ大切ナリ」の言葉を体現するべく、ヘレン・ケラーの来学や全国初の点字入試実施など、連綿とその理念が受け継がれてきました。

同志社大学では2000年に「障がい学生支援制度」を発足し、2016年には障害者差別解消法が施行され、障がい者を取り巻く社会が大きく変化したと同時に、高等教育機関における障がい学生への「支援」のあり方にも大きな影響をもたらしました。

本講では、このような本学のあゆみと社会的背景を踏まえ、障がい者/学生自身、およびそれを取り巻く人と環境を「ダイバーシティ（多様性）」の視点で包括的に捉え、「組織の責務としての学びの権利保障」と、「教育機関として担うべき支援のあり方」について受講生同士が意見交換をしながら考察を重ねました。

内 容	
1	ガイダンス／本学のあゆみ [オンデマンド]
2	障がいとは何か／合理的配慮とは何か
3	障がい者の権利保障と法整備
4	日本の高等教育機関における障がい学生支援
5	障がい者スポーツにおける「障がい」を考える
6	合理的配慮を考える①：聴覚障がい体験と支援
7	合理的配慮を考える②：視覚障がい体験と支援
8	合理的配慮を考える③：肢体不自由体験と支援
9	合理的配慮を考える④：精神障がい学生への支援
10	合理的配慮を考える⑤：発達障がい学生への支援
11	特別支援教育と合理的配慮
12	社会における支援事例
13	障がい学生支援の経験から：身体障がい
14	障がい学生支援の経験から：発達障がい
15	ふりかえりとまとめ [オンデマンド]

本科目は、大学コンソーシアム京都の単位互換科目として大学コンソーシアム京都に加盟している約50大学に開講している開かれた同志社大学の科目です。

●障がい体験講習会

【発達障がい体験講習会】

開催日・場所：10月16日（水）京田辺校地 多目的ホールラウンジ
10月23日（水）今出川校地 良心館サンクンモール横地下ラウンジ
参加者数：延べ33名

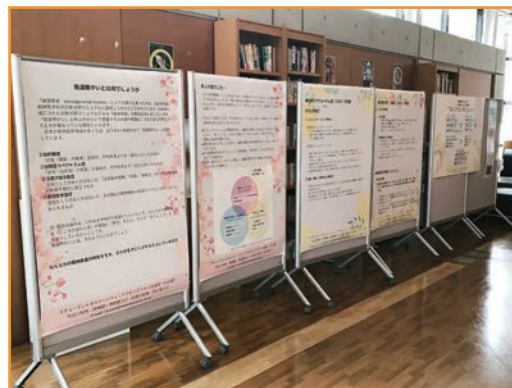
【身体障がい体験講習会】

開催日・場所：10月17日（木）京田辺校地 多目的ホールラウンジ
10月24日（木）今出川校地 良心館サンクンモール横地下ラウンジ
参加者数：延べ68名

両校地で、教職員・学生を対象に、障がい学生支援に関する理解促進を目的として、身体・発達障がい体験講習会を開催しました。

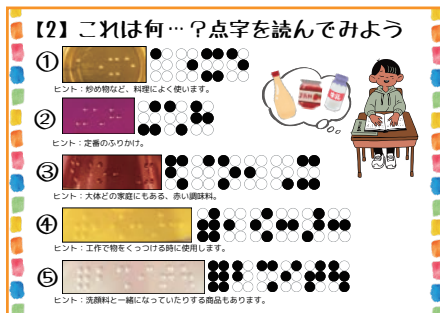
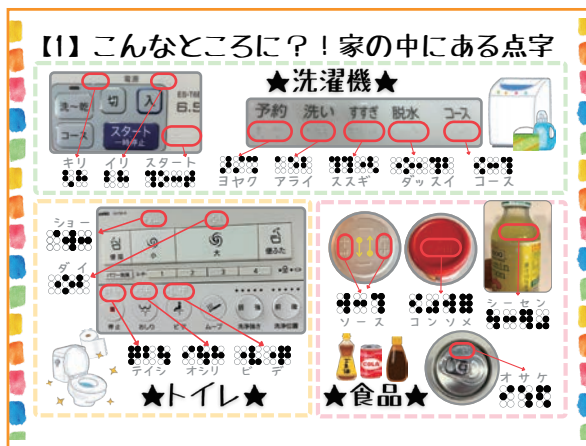
「発達障がい体験」では、コーディネーターによる講習、YouTube視聴による障がい体験、自由に見ていただけるパネル展示を通じて発達障がいに関する理解を深めることができました。

「身体障がい体験」では、点字体験・アイマスクをしながらパンを食べるといった体験を通じて、全盲体験をしていただきました。見えないことによる難しさや怖さ、移動介助の難しさ等、体験を通して様々な社会的障壁に気づく時間となりました。



【参加者の声】＜参加後の自由記述アンケートの一部をご紹介します＞

- ・障がいのある子どもを対象としたボランティアをしていることから、今回障がいについて知ろうと参加してみました。障がいのある子と接していても、自分の知らないことがあって学びになりました。
- ・教職をとっており特別ニーズ教育論などの授業で視覚障がい者などについて少し学んだが、実際に介助体験や点字の作成をしてみてサポートという点でのイメージをつかむ事ができました。これまで点字や介助体験などしたことがなかったので良い機会になったと思います。



●第20回Challengedキャンプ

開催期間・場所：12月24日（火）～12月26日（木） 兵庫県たつの市御宿志んぐ荘
参加者数：19名（学生9名、介助者3名、教職員7名）

SDA室では、参加学生が2泊3日の間さまざまな障がい体験をすることで、普段の生活では気づかないバリアに気づき、対話と交流をとおしてお互いの心の中にあるバリアと向き合うことを企図しChallengedキャンプを催行しています。

記念すべき第20回目となるChallengedキャンプは、12月24日～26日に兵庫県たつの市で実施し、9名の学生が参加してくれました。

また、今年はクリスマスに開催ということもあり、点字シールを貼ったクリスマスプレゼントの交換や、クリスマスの装飾を準備し、あたたかい雰囲気の中、それぞれのバリアと向き合う時間をプログラムに組み込みました。2泊3日を通して得たこの経験がキャンプと同時に終わる一過性のものでなく、今後の社会生活の中において広く活かされることを目指しています。

クリスマス
あいてる？

第20回
Challengedキャンプ
参加者募集

日程：12月24日（火）～12月26日（木）

Challengedキャンプは障がい学生と一般学生が寝食をともにする場
お互いの交流をはかり、お互いを知り
そして お互いが本音で語り合うことを大切にします
音がない・光がない・身体が自由がきかない...という世界を全員で体験します
いつもの自分とは違った視点から 見慣れた風景を見つめます

「私」と向き合い 「あなた」と向き合い
そして「私たち」が向き合う そんな3日間を過ごします

車いすから見る
目の景色は
どんなふう？

アイマスクをして
食べる食事
どんな味？

仲間との会話で
新たな気づきが

申し込みフォーム

目 録 / 12月24日（火）～12月26日（木）
場 所 / 兵庫県 たつの市
参 加 者 / 19名（学生9名、介助者3名、教職員7名）
募集人数 / 35名（教職員が同行します）
申込方法 / 志願のフォームからお申し込みください
申込期間 / 12月19日（金）～12月23日（金）17:00迄
※応募者数超過の場合は抽選となります。結果は24日（火）にメールでお知らせします。

【お問い合わせ】
学生支援センター
オアシス・プロジェクト・パンティ・アクセシビリティ・推進室
中谷川陽子 TEL: 079-251-5203
担当教職員 TEL: 079-251-5201
E-mail: oasish@doshis.ac.jp
※メールではお問い合わせは
E-mail: oasish@doshis.ac.jp 宛
※お問い合わせは学生支援センター
Instagram: oasish_doshis

DOSHISHA UNIVERSITY

初日 12/24(火) プログラムⅠ

- 9:00 今出川校地寒梅館集合 最初の挨拶 オリエンテーション
- 10:30 寒梅館バス出発→途中SAでお手洗い休憩、バス車内で昼食
- 13:00 プログラムⅠ-①（障がい体験） 舞子海上プロムナード
- 16:00 宿舎到着
- 16:00 プログラムⅠ-② 宿舎・会議室
- 18:00 夕食（障がい体験）
- 19:00 プログラムⅠ-③ 宿舎・会議室
- 20:00 1日目終了（21:00まで会議室利用可 23:00までお風呂貸切）

DOSHISHA UNIVERSITY

2日目 12/25(水) プログラムⅡ

- 8:00 朝食（障がい体験）
- 9:00 2日目オリエンテーション
- 9:30 宿舎出発 プログラムⅡ-①（障がい体験） 太陽公園
- 15:00 宿舎到着 プログラムⅡ-② 宿舎・会議室
- 18:00 夕食（障がい体験なし）
- 19:00 プログラムⅡ-③ 宿舎・会議室
- 19:30 2日目終了（21:00まで会議室利用可 23:00までお風呂貸切）

DOSHISHA UNIVERSITY

3日目 12/26(木) プログラムⅢ

- 7:00 朝食（自由）
- 8:30 プログラムⅢ-① 宿舎・会議室
- 11:30 最後の挨拶
- 12:00 宿舎出発→途中SAで昼食
- 15:30 京都駅解散（今出川校地寒梅館解散でも可）
- 16:00 今出川校地寒梅館解散



【参加学生の声】

＜キャンプに参加した感想＞

- ・言葉で言い表せない感動と幸せな気持ちでいっぱいになりました。自分も含めた周りの人が、日が経つにつれ楽しそうな表情をする姿を間近でみることができて嬉しかったです。
- ・このキャンプを通してできた体験と出会えた人、発見できた考え方は、どれも普段の生活では得られなかったかもしれないし、とても大きな価値があるなど感じています。参加して本当に良かったです。
- ・言葉の壁という、想像していたのとはまた違ったバリアもあり、何度参加しても新しい発見のあるキャンプだと感じました。
- ・実際に障がいのある人との交流は今回が初めてなので、たくさんの新しい発見ができ、そして友達ができたのでとても満足です。行ってよかったです。
- ・想像以上に、障がいや心のバリアについて仲間と向き合うことができました。なりたい自分が何かを見つけることができました。

＜キャンプに参加して、自分自身が変わったこと＞

- ・自分の心の奥底のものをうまく言葉にし、そして他人の悩みを想像し、共感するという機会を得られました。
- ・自分が現在の社会の環境において持っているハンデの大きさが実感できたことで、自己受容が高まりました。
- ・自分もありのままで過ごして良いということ、自分の事情を話して理解しようとしてくれる人、温かく受け入れてくれる人達が存在していると思えました。そして、他の障がいのある方への配慮の重要性も実感できました。
- ・今までは、知識としてしか障がいを理解していなかったが、実際に体験し、サポートすることで見えなかったものが見えるようになりました。
- ・障がい体験では、想像以上のもどかしさを感じました。手助けをすることで、不安や孤独感を減らすことができて、消えることは無いという現実を知りました。長時間の介助をした時、自分のことを後回しにすることが多くストレスを感じやすいこと、思った通りに介助できないもどかしさを知り、視界を広げることができました。

●階段誘導キャンペーン

開催日・場所：2025年1月6日（月）、1月9日（木）今出川校地 良心館1階、3階、階段周辺
1月7日（火）京田辺校地 知真館1号館入口
協力者数：4名（利用学生、学生スタッフ）

両校地で、車いす利用者や移動に困難さがある方々のエレベーター利用優先を目的とした啓発キャンペーンを実施しました。この取り組みは、中間振り返りの際に下肢や内部障がいのある学生から「混雑時にエレベーターを優先的に利用できないことがある」という声を受け、対策として企画しました。事前に混雑する時間帯やエレベーターを特定・調査し、サポートスタッフや利用学生とともに啓発チラシを配布することで、エレベーター混雑の緩和と利用環境の改善を目指しました。

今回、一緒に啓発チラシ配布の協力をしてくれた利用学生の声を紹介します。



【スタッフの声】

谷口 菜津穂（社会学部 3年次生 / 利用学生）



参加した理由は、以前、SDA室の交流会で、車いす利用学生から、昼休みなど人の移動が集中する時間にエレベーターを利用できないことがあるとお聞きしていたからです。SDA室から今回の案内をいただき、少しでも力になればと思い参加しました。

実際に参加して、エレベーターが利用できず困っていることを、知らない方が多いと気がきました。キャンペーンの際には小さなピラを配りましたが、エレベーターを利用する際に意識できるようなポスターの提示等、より多くの方にエレベーターを必要とする方の存在を知ってもらえるような取り組みが今後必要だと感じました。

今回のキャンペーンを通して、少しでも多くの方にエレベーターを必要とする方の存在に気付いていただきたと思うと同時に、私自身、様々な困り感を抱えた方々の存在に気づき行動できるように、今後も学んでいきたいと思いました。

●車いすユーザーの利用学生と話そう！（サポートスキル勉強会番外編）

開催日・場所：2025年1月10日（金）両校地 オンライン開催
1月17日（金）今出川校地 明徳館地下1階 SDA室ラウンジ
2月7日（金）両校地 オンライン開催

参加者数：延べ9名

講師協力：1名（利用学生）



2025年1月10日と2月7日にオンライン、1月17日に今出川校地対面で車いすユーザーの利用学生が講師を担当し、車いすサポート勉強会を開催しました。

初回のオンライン開催では、授業を受けるために必要なサポートや困りごとについて、講師がスライドを表示しながら説明しました。2回目のオンライン開催では、緊急時の対応方法やサポートスタッフとの円滑なコミュニケーションの取り方について、参加者のみなさんと意見を出し合いました。対面開催では、実際に電動車いすの操作や、姿勢調整の方法を教わり、サポート中に注意するポイントについて、より実践的に学ぶことができました。今回は、講師を担当してくれた、利用学生の声を紹介します。

【講師スタッフの声】

白土 雄太（文学部 3年次生 / 利用学生）

私には、進行性の筋肉の障がいがあり、普段は電動車いすを使用しています。そのため、入学前の段階から現在まで、SDA室のサポートを受けており、これまで職員の方やサポートスタッフの皆さんのご尽力のおかげで、充実した大学生活を送ることができています。

ただ、日々サポートを受ける中では、自分の障がい内容やサポート上の注意点・要望について、改めてお話しする機会は少なく、また、私自身が遠慮してしまうこともあり、色々な困りごとや課題に感じる部分が生じていたことも事実です。

今回の勉強会で、こうした率直な悩みを、身体障がいを抱える車いすの学生として、皆さんに今一度お伝えすることで、私が置かれている現状や改善すべき点を振り返ることができたのは勿論、身体障がいがあること、車いすユーザーであることが何を意味するのかについての、一つの事例を改めて知っていただけたことは、とても有意義でした。

また、障がいの有無に関わらず、同じ学生として、どうすれば円滑に大学生活を送ることができるのか、共に悩み、話し合うことができた、という実感があり、今回お話しさせていただいたことは、大変貴重な経験になりました。



社会貢献事業

●上京区憲法月間事業「映画のつどい」

開催日・場所：5月9日（金）今出川校地 寒梅館ハーディーホール
内 容：講演時のPC通訳
協力スタッフ：4名

今出川校地 寒梅館ハーディーホールにて上京区憲法月間事業「映画のつどい」が開催されました。講演時のPC通訳活動をしたスタッフの声を紹介します。

【PC通訳スタッフの声】

越智 愛佳（文学部 3年次生 / サポートスタッフ）

PC通訳として「映画のつどい」に参加させていただきました。

SDA室のサポートスタッフに登録して以来、PC通訳として活動することを目標の一つとしていたため、今回は初めてPC通訳スタッフとして臨んだ思い入れのある活動となりました。タイピング速度が勉強会に参加できるレベルになるまで半年かかり、現場で活動するには更に精度を上げる必要があり、長い道のりでした。

学外活動の参加も初めてで緊張しましたが、隣に並ぶ先輩スタッフたちの姿が心強く、とても良い経験をさせていただきました。

講演と映画「志乃ちゃんは自分の名前が言えない」を通して、吃音当事者のもどかしさや苦勞を主観的な目線で知る機会となりました。言葉で伝えることが難しく、互いにすれ違ってしまいう人間模様を見て胸が痛みました。今後もSDA室での活動を通して相互に補い合える環境を目指し、言葉にせずとも寄り添える心を持った人間になりたいと改めて思いました。



●海外研修訪問者との情報交換



【第1回目】

開催日・場所：5月13日（月）今出川校地 明德館地下1階 SDA室ラウンジ
内 容：「ダスキン・アジア太平洋障害者リーダー育成事業」第23期研修生と大学等における障がい学生支援をテーマに情報交換
協力スタッフ：2名（利用学生・学生スタッフ）

【第2回目】

開催日・場所：2月19日（水）今出川校地 寒梅館キャリアセンター内会議室内
内 容：「ダスキン・アジア太平洋障害者リーダー育成事業」第24期研修生と大学等における障がい学生支援をテーマに情報交換
協力スタッフ：1名（利用学生）



「ダスキン・アジア太平洋障害者リーダー育成事業」として来日中の研修生が、日本の障がい学生支援の現状や課題をより具体的・多角的に学ぶため、訪問されました。SDA室の取り組みや、関係教職員・コーディネーターの業務、サポートスタッフの活動等を学ぶことを目的に情報交換会を実施しました。交流会に参加した利用学生の声を紹介します。

【参加学生の声】

山田 翔登（法学研究科 / 利用学生）

私は、自らも視覚障がいのある当事者であり、各国の障がい者支援に興味を持っていたため、海外研修者との情報交換会に参加を希望しました。

私は、1年間スイスに留学していたことから、これまではヨーロッパと日本の障がい者支援の違いについて特に興味を持っていたのですが、今回の情報交換を通じて研修者の方の母国であるスリランカについても理解を深めることができました。印象に残ったことは、その国の現状に応じて、最も効果的で実現可能な支援を行うことの難しさについてです。例えば、スリランカでは視覚障がいのある人がスクリーンリーダーを用いてパソコンなどを利用することは費用の観点から難しいことを知り、その国に応じた支援のシステム作りを行う必要があることに気づかされました。決して簡単なことではありませんが、私自身も自らのニーズを満たすだけでなく、世界的に障がい者が抱える課題を解決していけるよう行動していきたいと感じています。

●城陽市議会議員他の京セラ字幕表示システム「Cotopat」見学会

開催日・場所：5月14日（火）京田辺校地 成心館1階 SDA 室
 内 容：城陽市議会議員（1名）と聴覚障がい者他（6名）への京セラ字幕表示システム「Cotopat」本学導入における情報交換と見学会

京都府城陽市は2015年3月に「手話言語条例」を成立（2015年4月施行）し、手話への理解促進と普及に力を入れておられます。さらに聴覚障がい者等への理解が必要と感じられ、同志社大学で導入しているCotopatの見学に来られました。

※同志社大学では、2023年12月に、話した言葉をリアルタイムに認識して文字・図解・動画を表示するシステムCotopatを、今出川、京田辺両校地SDA室へ導入しました。



●鳥取大学来校

開催日・場所：6月10日（月）今出川校地 明德館地下1階 SDA 室ラウンジ
 内 容：SDA 室の取り組みについて・聴覚障がい学生への支援方法について、意見交換と見学を目的に鳥取大学7名が来校
 協力スタッフ：3名（学生スタッフ・一般スタッフ（聴覚障がい者））

鳥取大学「地域調査プロジェクト」科目担当教員2名と学生7名の皆さんが、SDA 室の取り組みについて・聴覚障がい学生への支援方法について、意見交換と見学を目的に訪問されました。

今回、意見交流会に参加した学生の声を紹介します。

SDA室についてご紹介

1. SDA室の概要
2. SDA室の体制
3. 事業内容について
4. 取り組みについて紹介
5. サポートスタッフについて
ランチャイム手話の募集動画視聴
6. 聴覚障がい学生支援について意見交換会
PC通訳デモ

【スタッフの声】

大和田 宗（法学研究科 / サポートスタッフ）

他大学との交流ということで、外部から新しい考え方を吸収し、刺激を受けるべく、意見交流会に参加しました。

鳥取大学の方々との交流を通じて、手話を言語として捉えた際に、積極的に使っていくことが上達の近道だと改めて認識できました。また、母語でない人に対して手話を広めていく方法について、それを研究の対象として客観的に捉え、教授・習得の手法の体系化を図っていくことが今後の課題だと意識を共有できました。さらに、手話を習得するにあたり、指文字から取り組んでいる皆さんの姿を拝見して、自分もいずれは手話にもチャレンジしたいと改めて勇気づけられました。

鳥取大学で実施している、支援のできる人がマークを身につけて周囲に積極的にアピールするという取組みが大変印象的で、サポート体制の宣伝方法として大いに参考にしたいところです。

今後も外部との交流を通じて、SDA 室での支援活動をアピールしたり、支援に関する問題意識を共有したり、新しいアイデアをどんどん吸収していきたいと考えています。

長谷川 竹雪（商学部 1 年次生 / サポートスタッフ）

今回の意見交流会の中では手話の学習方法として、手話以外を使わない昼食会をすることや、手話を母語として使っている人と会話することなど、「使う」に重点をおいた意見がたくさん出ていたことが印象的でした。私も現在手話を習得中ですが、手話を覚えることに精一杯になってしまっています。手話は言語ではあるものの、英語などの音声言語とは異なり、視覚言語で、一つの手話でも複数の意味を持つことが多いので、正しく伝えることも重要になります。そのためには口を大きく動かしたり、表情をつけたりすることが重要だという意見がでていて、読み取りやすい手話を目標に、これらを意識しながら学びを進めていきたいと感じました。手話は比較的話者が少なく、手話について話せる機会も貴重で、とても有意義な時間になりました。



● パラスポーツ振興事業 第32回パラアーティスティックスイミングフェスティバル

開催日・場所：10月6日（日） 京都市障害者スポーツセンター

内 容：PC 通訳

協力スタッフ：4名

障がいのある人となない人がともにアーティスティックスイミングに取り組み、お互いの交流や技術の向上を目指すフェスティバルが京都市障害者スポーツセンターで開催され、4名のサポートスタッフがPC通訳をしました。



【PC通訳スタッフの声】

國領 あい理（理工学部 3年次生 / サポートスタッフ）

今回、初めてPC通訳を体験しました。初めての通訳だったので、イベントで重役を務めることに少し緊張していました。ですが、実際に現地に行ってみると活気あふれる空間で、参加者の皆様から他のスタッフの方々までとても楽しそうにしておられ、本番は緊張することなく私も一緒に楽しむことができました。

沢山の素晴らしい演技に心を動かされ、生きるって素晴らしい、と心から感じました。もっと色々な事にも挑戦していこうと思える体験でした。

● 第20回京都手話フェスティバル

開催日・場所：2025年2月23日（日） 京都新聞文化ホール

内 容：PC 通訳

協力スタッフ：4名

京都新聞文化ホールにて「第20回京都手話フェスティバル」が開催され、サポートスタッフとして活動している学生が、PC通訳として参加してくれました。今回は、学外でのPC通訳を初めて経験したサポートスタッフのレポートを紹介します。



【スタッフの声】

安田 薫（政策学部 2年次生 / サポートスタッフ）

私は初めてイベントでPC通訳を担当しました。これまで何度かPC通訳を目にする機会はありませんでしたが、見る側と提供する側の両者を体験することで改めて情報保障の重要性や支援の難しさを理解することができました。

特に、この度参加させて頂いた「手話フェスティバル」は聴者の方だけでなく、聴覚障がい者の方も沢山参加されていました。そのため、普段私が担当している学内授業でのPC通訳よりも多くの人が表示画面を利用されていると感じました。PC通訳は音声と文字表記を同時に表出することで、聴者と聴覚障がい者が同じ瞬間に同じ空気感を楽しむことができます。現在の社会では、全てのイベントにPC通訳が設置されている訳ではありませんが、今回のイベントのように情報保障が普及する契機になれば良いなと思いました。そして、学生時代の情報保障支援の経験を社会人になった際に、活かしていけるよう努力したいと思います。

SOGI に関する取り組みについて

ジェンダー・セクシュアリティに関する理解を深めるための広報・啓発イベントとして「同志社レインボー映画祭」「同志社レインボーセミナー」等を開催しています。

●同志社レインボー映画祭

開催日：6月21日（金）、6月24日（月）

各日2回計4回

場所：今出川校地 寒梅館ハーディーホール

京田辺校地 恵道館 201 番教室

内容：映画鑑賞

参加者数：71 名（教職員含む）

LGBTQ+ をテーマとしてレインボー映画祭は4回目の開催となります。2024 年度は、身近に感じて考えてもらうことを目的に2本の邦画を選定しました。上映後には感想シェアティパーティを開催しました。共感だけではなく、自分とは違う考え方を知る機会にもなり、参加者にも好評でした。



【参加学生の声】

今までに見たことない考えさせられる内容だった。あまり普段自分で選ばない内容だったので機会があって良かったです。感想を色々な視点を持つ方とシェアできて、とても良い時間になりました。ありがとうございました。



●同志社レインボーセミナー

開催日：6月25日（火） 12:20 ~ 13:40

場所：今出川校地 良心館 103 番教室

内容：講演と質問会

講師：大久保 暁さん

参加者数：29 名（教職員含む）

LGBTQ+ 当事者として、学校での研修や講演が行われている暁 project 合同会社の久保暁氏をお招きし、講演会を開催しました。前半は講演では、「女性として生まれ、男性として生きる僕から伝えられること〜結婚を決意したパートナーの想いは〜」と題してお話しいただき、性別にとらわれず人として尊重し合い生きられる社会になるために何ができるか考える時間となりました。後半は参加学生との座談会形式で行い、LGBTQ+ 当事者の方の生き方に触れる貴重な機会となりました。

【参加学生の声】

自分の中で視野が広がって貴重なお話を聞いて良い機会になりました。普段自分自身が無意識のうちに使っている言葉が相手を傷つけてしまっているかもしれないと感じ、これからは気を付けようと思いました。ALLYになろうと思います。

●教職員対象 LGBTQ+ の学生への配慮・対応に関する研修会

開催日・場所：12月13日（金）12:30 ~ 13:40 オンライン開催

教職員を対象とした「LGBTQ+ の学生への配慮・対応に関する研修会」を実施しました。講師として鳴門教育大学の葛西真記子教授をお招きし、LGBTQ+ についての基本的な知識から、大学生の時期にどのような悩みを持っているかなど共有いただき、大学での支援についてなど講演いただきました。具体的事例も交えてお話しいただき、今後の大学での取り組みのヒントとなるようなお話をお聞きすることができました。

●性の多様性に関する調査

2022年度より全学部・研究科学生を対象とした意識調査を実施しています。

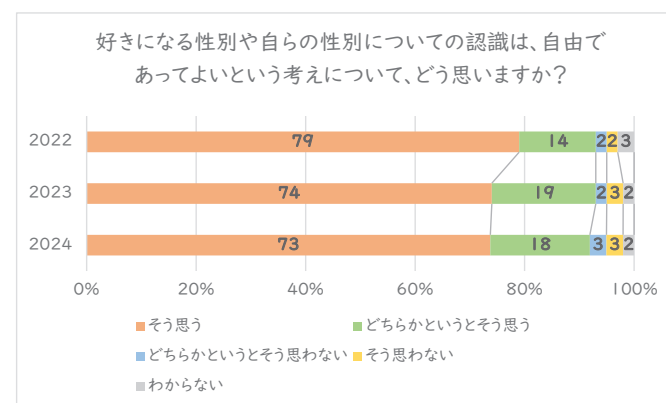
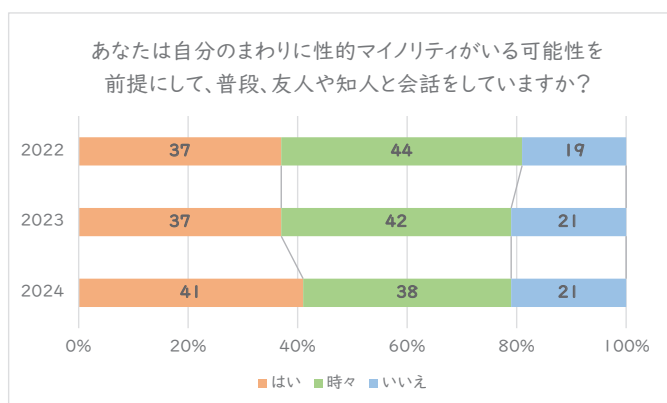
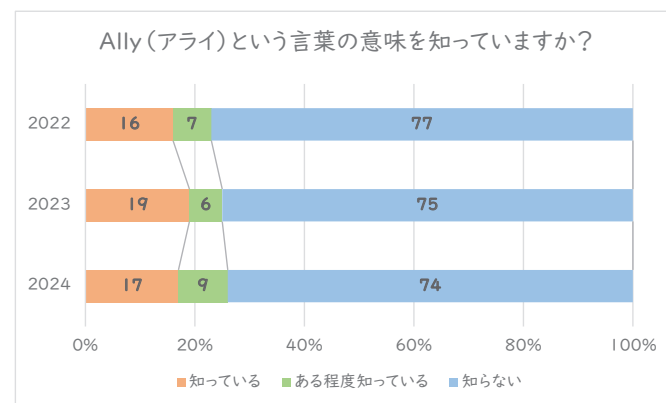
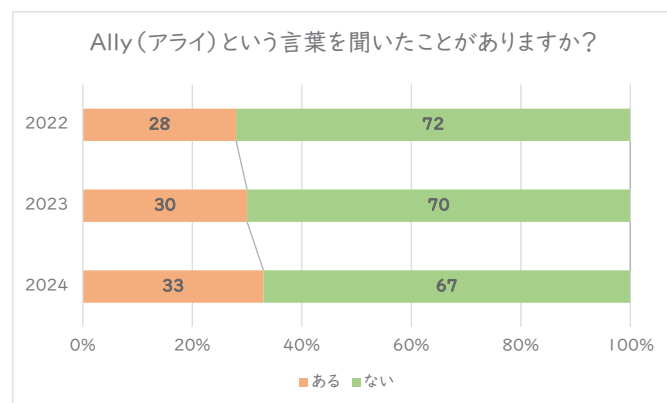
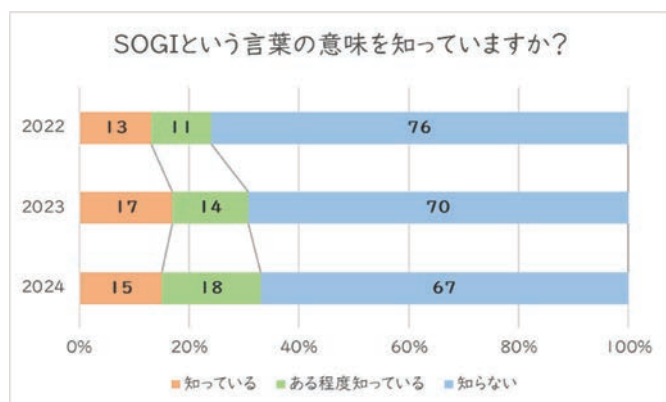
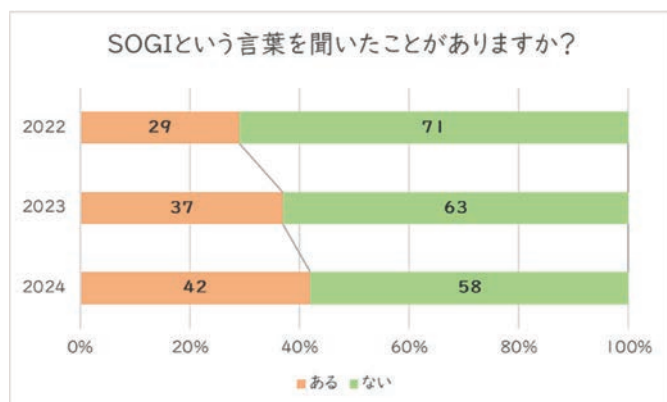
2024年度は10月15日より3か月間、同志社大学ポータルを利用して実施しました。

回答数は前年度比で115.6%でした。

自由記述では、大学への要望としては理解啓発イベントの実施が多く見られました。

今後もこの調査結果を性的マイノリティ当事者の支援の施策を検討、推進する際の参考にしていく予定です。

2024年度「性の多様性に関する調査」結果 (実施期間：2024年10月15日～2025年1月15日)



スチューデントダイバーシティ・アクセシビリティ支援室について

● 2024 年度サポートスタッフ登録・活動の状況

登録状況

(単位：人)

2024 年度	スタッフ	学生	一般	合計
春学期 (7 月末現在)	登録者数	158	12	170
	活動者数	68	4	72
秋学期 (1 月末現在)	登録者数	137	12	149
	活動者数	54	2	56

週当たりの派遣コマ数 (2024 年度春)

(単位：コマ)

活動内容	両校地
PC 通訳 (1 コマ 3 名体制含む)	0
ノートテイク	0
授業補助	19
移動介助 (車いす介助)	10
テキスト校正	10
代筆	29
生活支援	2
食事介助	2
座席確保	3
付き添い	0
手話通訳 (外部委託)	2
合計	77

授業を除く派遣数 (活動がある場合の週当たり) (単位：人)

活動内容	両校地
代理タイピング	6
文字起こし	1

※文字起こしは、外注対応

※大学行事、正課外の学内外支援、勉強会等講師派遣は除く

週当たりの派遣コマ数 (2024 年度秋)

(単位：コマ)

活動内容	両校地
PC 通訳 (1 コマ 3 名体制含む)	0
ノートテイク	0
授業補助	20
移動介助 (車いす介助)	13
テキスト校正	0
代筆	20
食事介助	3
座席確保	0
手話通訳 (外部委託)	2
合計	58

授業を除く派遣数 (活動がある場合の週当たり) (単位：人)

活動内容	両校地
代理タイピング	4
文字起こし	0

授業を除く派遣数 (秋学期間)

(単位：人)

活動内容	両校地
PC 通訳養成 (オンライン・面接授業)	19

※大学行事、正課外の学内外支援、勉強会等講師派遣は除く

1. 本学における障がい学生支援のあゆみ

同志社大学の障がい者支援は 1949 年に遡る。入学試験において、日本の大学で初めて点字受験の対応を開始した。1975 年、点訳・墨訳担当者を配置し、試験問題の点訳を開始。1982 年には学長の諮問機関として「障害者問題委員会」を設置し、これを契機に今出川校地内建物入口スロープや自動昇降機を設置、1984 年からは語学テキストの点訳業務を開始した。

1986 年、京田辺校地の開校にあたり、キャンパスの基本設計から全面的なバリアフリー化をはかり、図書館内には点字室や対面朗読室を設けた。

2000 年 3 月、「障害者問題委員会」からの学長宛て答申を契機として同年 5 月「障がい学生支援制度」がスタートし、翌 2001 年に同委員会からの再答申により、講義補助から講義保障へと一段と踏み込んだサポートが開始された。この際、一部の支援で、サポートスタッフの活動を有償化した。

2002 年には「障害者問題委員会」を「ノーマライゼーション委員会」と名称変更し、学内の障がい学生の総合的相談窓口を、学生部に一本化、2004 年、今出川・京田辺の両キャンパスに常勤の障がい学生支援コーディネーターを配置し、日本聴覚障害学生高等教育支援ネットワーク (PEPNet-Japan) との連携協力を開始した。

2006 年には日本学生支援機構 (JASSO) の「障がい学生就学支援ネットワーク事業」の拠点校として連携協力を開始し、2007 年にはアシスタントスタッフ (有償) とボランティアスタッフ (無償) を統一し、「サポートスタッフ」として全

支援を有償化した。

2008 年、「ノーマライゼーション委員会」を発展解消し、「学生主任連絡会議」に整備・再編するとともに、学生支援センター内に「障がい学生支援室」を設置した。

2009 年秋より、事務組織上、障がい学生支援室を京田辺校地学生支援課に一元化した。

2014 年秋に発足した全国高等教育障害学生支援協議会 (AHEAD JAPAN) に発起人校として参加した。

2016 年 4 月の「障害を理由とする差別解消の推進に関する法律 (障害者差別解消法)」施行に伴い、2018 年 4 月に障がい学生支援制度の一部見直しを行い、修学支援に関する申請から合理的配慮の決定手続きまでの過程を明確化するとともに、支援内容については学生とその所属学部 (大学) が合意をとる形式とした。

2. スチューデントダイバーシティ・アクセシビリティ支援室

2021 年 4 月、障がい学生支援室が改組され、スチューデントダイバーシティ・アクセシビリティ支援室 (SDA 室) が開設された。現在、SDA 室には専属の障がい学生支援コーディネーターが常駐しており、障がいのある学生に対して学生サポートスタッフの協力を得て、授業保障に関わるサポートを行っている (授業保障とは、障がいのある学生が希望するすべての授業について、一般学生と同じレベルで受講できるよう保障することである)。

同志社大学における障がい学生支援の沿革

1937 年	ヘレン・ケラー女史、同志社女子部で講演
1949 年	大学入学試験において点字受験対応を開始（日本の大学では初）
1952 年	同志社大学盲学生友の会（盲友会）結成、盲友会による授業支援開始
1975 年	教務課に非常勤の点訳・墨訳担当者を配置 試験問題の点訳を開始、1984 年度より語学テキストの点訳業務開始
1982 年	大学長の諮問機関として「障害者問題委員会」設置（1982 年 4 月）を契機に、以後順次今出川校地内の建物入口スロープや自動昇降機等を設置
1986 年 4 月	京田辺校地設計にあたりバリアフリー化を企図、図書館内に点字室と対面朗読室を開設
1991 年	視覚障がい者用ワープロ購入と同時に図書館（今出川校地）内に点字室を設置
1992 年 4 月	教務課（今出川校地）に常勤の点訳・墨訳担当者を配置
2000 年 5 月	障害者問題委員会からの学長宛答申（2000 年 3 月）を契機として「障がい学生支援制度」がスタート（予算管理は教務課） ・障がい学生の把握と相談窓口 ・正課授業保障の体系化（教科書点訳は基本的に大学が責任をもつ） ・障がい学生の人的支援制度 (1) 「障がい学生支援連絡会」を設置 (2) 学生課（京田辺校地）によるボランティア（ノートテイク・パソコン通訳）学生派遣 (3) 奨励金制度の導入・懇談会の開催
2001 年 10 月	障害者問題委員会からの学長宛答申（2001 年 8 月）を契機として「講義補助」から「講義保障」へ制度の謳いなおし ・講義保障のために、ボランティアスタッフ（主に視覚障がい学生及び肢体不自由学生へ学生生活支援（無償））に加え、アシスタントスタッフ（聴覚障がい学生への講義通訳（有償））制度を導入
2002 年	予算管理を学生課（京田辺校地）へ移管 「障害者問題委員会」を「ノーマライゼーション委員会」と名称変更
2002 年 1 月	学生課（京田辺校地）に常勤の手話通訳担当者を配置
2003 年	「障害」の「害」について、人を意味するときのみ「障がい」とする旨を決定、採用 大学院生に対しては可能な範囲で補助をする「講義補助」という立場を明確化
2003 年 4 月	入学式・卒業式に手話通訳を導入
2004 年 4 月	両校地に常勤の障がい学生支援コーディネーターを配置 肢体不自由者（電動車イス専用）用トイレ設置
2004 年 5 月	学生部再編により学生支援センターへ名称変更
2004 年 10 月	日本聴覚障害学生高等教育支援ネットワーク（PEPNet-Japan）への連携協力開始
2005 年 3 月	両校地の全ての教室棟扉・トイレに点字シールと対応墨字シール貼付
2005 年 5 月	JR 福知山線脱線事故で受傷した学生に対して「障がい学生特別支援体制」で対応
2005 年 8 月	Challenged キャンプ開始
2005 年 9 月	学際科目（現・複合領域科目）「学びのバリアフリーを考える－障がい学生支援－（聴覚障害への講義保障を通して）」の運営協力を開始
2006 年 10 月	日本学生支援機構（JASSO）の「障害学生修学支援ネットワーク事業」に拠点校として連携協力開始
2007 年 4 月	ボランティアスタッフ（無償）とアシスタントスタッフ（有償）を統一し、「サポートスタッフ」として全支援有償化
2007 年 10 月	障がい学生キャリア支援セミナーをキャリアセンターと協力して開催
2008 年 4 月	「ノーマライゼーション委員会」を発展解消し、「学生主任連絡会議」に整備・再編 障がい学生支援窓口を「障がい学生支援室」として再編
2008 年 10 月	第 4 回 PEPNet-Japan シンポジウム「聴覚障害学生支援に関する実践事例コンテスト 2008」において Challenged キャンプの発表で PEPNet-Japan 賞を受賞

2009 年 4 月	学生支援機構を設置し、4つのセンター（学生支援・保健・カウンセリング・キャリア）が連携し、組織的かつ総合的な学生支援体制を構築
2009 年 11 月	「障がい学生支援室」を学生支援センター京田辺校地学生支援課に一元化
2010 年 11 月	第 6 回 PEPNet-Japan シンポジウム「聴覚障害学生支援に関する実践事例コンテスト 2010」において「心のバリアフリーをめざして」および「Challenged キャンプ」の発表で準 PEPNet-Japan 賞を受賞
2011 年 4 月	日本学生支援機構（JASSO）「平成 22（2010）年度障害学生の教育支援に関する調査研究委託事業」『理工系大学院における聴覚障害学生の支援について』調査報告書発行
2011 年 5 月	PEPNet-Japan 連携協力校として東日本大震災により被災した大学への遠隔情報保障支援を開始
2011 年 9 月	障害学生修学支援ブロック別地域連携シンポジウムを日本学生支援機構と共催
2011 年 10 月	PEPNet-Japan「障害学生支援大学長連絡会議」に開催校として協力
2012 年 12 月	第 8 回 PEPNet-Japan シンポジウム「聴覚障害学生支援に関する実践事例コンテスト 2012」において「同志社の実り～そだてる・つながる・ひろがる～」の発表で 2 度目の PEPNet-Japan 賞を受賞
2013 年 2 月	同志社大学障がい学生支援に関する指針（ガイドライン）制定
2013 年 4 月	学生支援センター障がい学生支援室を大学事務機構規程に明記
2013 年 6 月	障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律（障害者差別解消法）制定
2013 年 12 月	PEPNet-Japan が「平成 25 年度バリアフリー・ユニバーサルデザイン推進功労者表彰」において「内閣総理大臣表彰」を受賞
2014 年 4 月	今出川・京田辺両校地フリーアクセスマップ製作
2014 年 10 月	一般社団法人全国高等教育障害学生支援協議会（AHEAD JAPAN）発足〔発起校として参加〕
2014 年 12 月	2015 年度から「人」を意味するときに加え「人の状態」を表す場合も「障がい」と表記を統一することを決定
2015 年 2 月	同志社大学障がい学生支援に関する指針（ガイドライン）改正
2015 年 6 月	PEPNet-Japan 遠隔情報保障事業モデル校採択
2015 年 11 月	大学生生活協同組合におけるインターンシッププログラムを実施
2015 年 12 月	同志社大学障がい学生支援室内規制定
2016 年 4 月	障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律（障害者差別解消法）施行
2016 年 6 月	PEPNet-Japan 特別プロジェクトとして熊本地震により被災した大学への遠隔情報保障支援を開始
2017 年 1 月	同志社大学障がい学生支援調整委員会に関する申合せ制定
2017 年 11 月	同志社大学障がい学生支援に関する指針（ガイドライン）改正
2018 年 4 月	障がい学生支援制度を一部変更し、合意内容確認書等を導入
2020 年 5 月	障がい学生支援制度発足 20 周年
2020 年 11 月	第 16 回 PEPNet-Japan シンポジウム「聴覚障害学生支援実践事例コンテスト 2020 特別編」でサポートスタッフが「最優秀作品賞」を受賞
2021 年 2 月	スチューデントダイバーシティ・アクセシビリティ支援室内規制定
2021 年 3 月	ハリス理化学館同志社ギャラリー第 22 回同志社ギャラリー企画展『『支え合う志』をつないで－障がい学生支援制度発足 20 周年－』（2021 年 3 月 19 日～5 月 23 日）
2021 年 4 月	改組により「スチューデントダイバーシティ・アクセシビリティ支援室」設置
2021 年 6 月	障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律の一部改正・公布
2021 年 8 月	障がい学生支援制度発足 20 周年記念シンポジウムを開催
2022 年 8 月	3 年振りに Challenged キャンプを宿泊型・対面形式で催行
2023 年 12 月	第 19 回 PEPNet-Japan シンポジウム「聴覚障害学生支援に関する川柳コンテスト 2023 教職員部門」でコーディネーターが「最優秀作品賞」を受賞
2024 年 4 月	障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律の改正により合理的配慮の提供が義務化
2024 年 4 月	同志社大学障がい学生支援に関する指針（ガイドライン）改正
2024 年 12 月	今出川・京田辺両校地バリアフリー詳細マップを製作

今出川校地



京田辺校地



同志社大学 学生支援センター スチューデントダイバーシティ・アクセシビリティ支援室 (SDA室)

今出川校地 寒梅館1階

〒602-0023 京都市上京区烏丸通上立売下ル御所八幡町103
Tel: 075-251-3273

今出川校地 明德館1階

〒602-8580 京都市上京区今出川通烏丸東入
Tel: 075-251-3261

京田辺校地 成心館1階

〒610-0394 京田辺市多々羅都谷1-3
Tel: 0774-65-7411

E-mail: jt-care@mail.doshisha.ac.jp

本パンフレットはユニバーサルデザイン(UD)フォントを使用しております。
ユニバーサルデザイン(UD)フォントとは、より多くの人へ適切に伝えられるよう、ユニバーサルデザインの視点から見やすさ、読みやすさを配慮・確認し、制作されたフォントです。



2025年7月発行